



年頭にあたって

町議会議長 新田 信一

平成十七年の新年を迎え謹んで新年のご挨拶を申し上げます。昨年、台風が例年より数多く上陸し、日本全土に甚大な被害をもたらしました。我が町においてもビニールハウスや家屋の損壊などがあり、被害を受けられた方々に心よりお見舞いを申し上げます。また、十月二十三日に発生した新潟中越地震では大勢の方々が被災され、いまだに非難生活を余儀なくされており、お見舞いを申し上げる次第であります。

昨年は、我が国の経済、景気など暗いことばかりの中で、スポーツが明るい話題を提供してくれました。特に高校球児の憧れの舞台である夏の甲子園で駒澤苫小牧高等学校が優勝し、我々道民に大きな感動を与えてくれました。また、オリンピック発祥の地で開催されたアテネオリンピックでは、日本選手の皆さんがたくさんのメダルを獲得され、パラリンピックでもそれぞれのハンデを乗り越えて多くの選手の方々が優勝するなど、日本国民に勇気と感動を与えてくれた一年でありました。

さて、イラク戦争が終息を迎えると期待をしておりましたが、依然として収まる様相がなく、大変憂慮している次第でありましたが、我が国の景気も大都会で上向いていると報道されており、さすが、北海道は依然として回復の傾向が見えず、大変な一年であったと思うところです。小泉内閣の三位一体の改革が真の行政・財政改革となるのがまだ見えてこない状態が続いており、特に地方への税源移譲がどのようになるのか見えておりません。このような状況の中で、地方交付税と補助金の削減についての財務省案だけが先行しており、本年も厳しい財政運営を強いられることとなります。

また、占冠村との合併協議は、昨年五月に法定協議会を設立して以降、基本事項について協議をしまいましたが、合意には至らず合併を断念することとなりました。町の将来を見据えて議論を尽くした協議会としての選択でありますので、町民の皆様のご理解とご協力をいただき、行財政改革をはじめ自立に向けた取り組みをしていかなければならないと考えております。

昨年の我が町の状況については、農業では春先の天候不順による植付けの遅れはありましたが、その後の天候が回復し気温も高く推移したことから、総体的によい年であったと思っております。

林業については、依然として厳しい状況が続いていますが、多面的機能を持つ森林を今後も守らなければと思っております。商業については、特に商店を営まれている皆様は、富良野圏域の中で大量販店の進出による消費の流出、不況による消費の低迷が続く厳しい状況にあり、商工会の指導力と会員皆様の協力的体制などが問われていると思っております。

厳しい状況の中で新年がスタートを切ったところですが、地方交付税の削減など歳入減が予想される中、先人が築いてくれた我が郷土「南富良野町」が更なる飛躍を目指し、町民生活の安定のために皆様の声に耳を傾け、まちづくりのために努力することを誓い申し上げます。皆様の益々のご健勝とご多幸を願い、年頭の挨拶とさせていただきます。

平成十七年 元旦